

策定年月	令和5年2月
見直し年月	

麦・大豆国産化プラン

産地名：芦別市新城北部地区

(作成主体：新城第五北部機械利用組合)

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

(秋小麦)

- ・ R4秋小麦実績 作付面積：16.2ha 収量：48,600kg
- ・ 現在、小麦の作付を行っている畑は、水が溜まり作物が出芽しない、水はけが悪く生育にも影響が出ている。対策としてサブソイラーなどによる心土破碎を行うことにより、排水能力の向上に取り組む。
- ・ また土壌についても、大型トラクター等による作業により耕盤化し根が張れなくなっているほか、酸性化が進み、生育障害なども発生している。今後は、土壌診断を行い、適切な堆肥、有機肥料や土改剤などの施用を行い、作物に適した土壌改良を進めることとする。
- ・ 組合員の高齢化や減少により、一人当たりの労働力が年々増しているところである。スマート農業技術の導入を進め、ドローンによる防除等を実施し、省力化に努める。
- ・ 前述した土壌診断の分析を踏まえた土壌改良の推進、スマート農業を含めた新たな農業技術の導入による作業効率及び生産性の向上に努める。
- ・ 実需者との情報交換による市場ニーズへの対応を図るとともに、今年度作の作物の品質分析結果を踏まえ、実需者との調整のうえ、次期作への適切な作付けを進める。

(大豆)

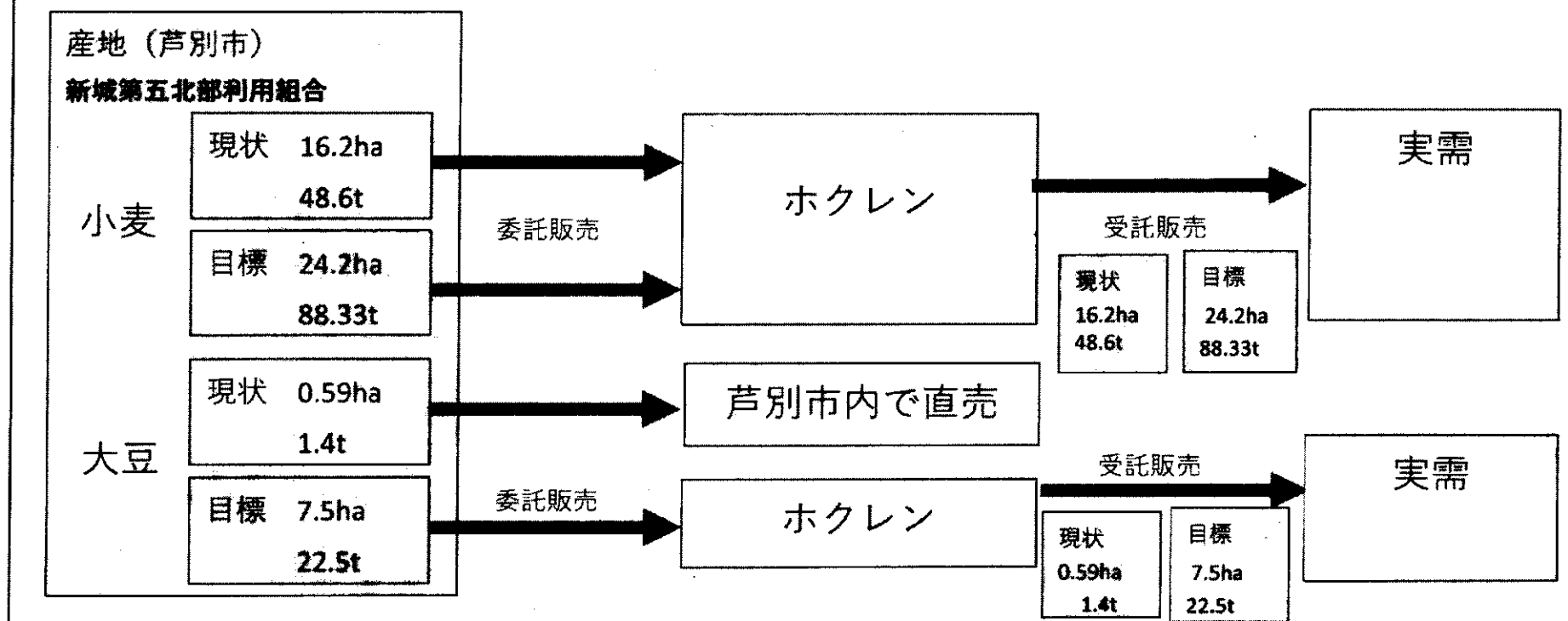
- ・ R4大豆実績 作付面積：0.6ha 収量：1,416kg
- ・ 現在、大豆の作付を行っている畑は、水はけが悪く生育にも影響が出ている。対策としてサブソイラーなどによる心土破碎を行うことにより、排水能力の向上に取り組む。
- ・ また土壌についても、大型トラクター等による作業により耕盤化し根が張れなくなっているほか、酸性化が進み、生育障害なども発生している。今後は、土壌診断を行い、適切な堆肥、有機肥料や土改剤などの施用を行い、作物に適した土壌改良を進めることとする。
- ・ 組合員の高齢化や減少により、一人当たりの労働力が年々増しているところである。スマート農業技術の導入を進め、ドローンによる防除等を実施し、省力化に努める。
- ・ 前述した土壌診断の分析を踏まえた土壌改良の推進、スマート農業を含めた新たな農業技術の導入による作業効率及び生産性の向上に努める。
- ・ 実需者との情報交換による市場ニーズへの対応を図るとともに、令和5年産より出荷形態をフレコン、フレコンに準じることとし、作業の省力化に努める。

※ 麦・大豆生産における課題（湿害対策、適期播種、土づくり連作障害対策等の必要性等）を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

- ・小麦は面積、生産量を増加させ、実需に対して安定供給を目指す。
- ・大豆は今まで芦別市内の直売所でのみ販売を行っていたが、面積を増加させ、ホクレンに委託し販路拡大に向けて調整している。



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

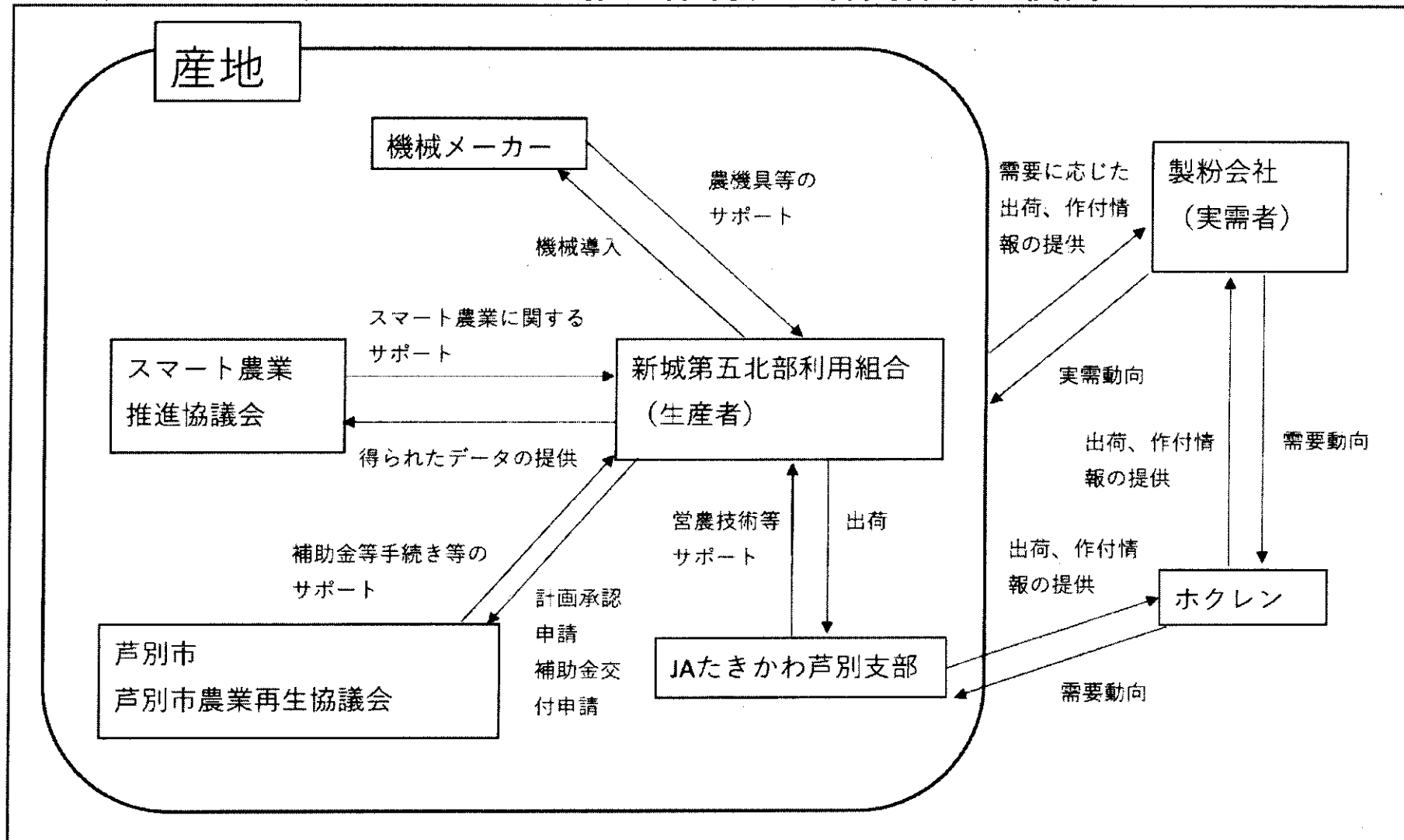
※ 小麦の実需者は、小麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺業者等）とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する方針その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的なものの名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産小麦・大豆取扱量の現状と概ねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地の実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。